

令和2年度第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和2年12月3日(木) 午後2時00分開会

2 開催場所 郷土博物館 研修室

3 出席委員

委員長	伊藤 誠	委員	高橋 佳代子
副委員長	武田 弘	委員	岩崎 照代
委員	加藤 みどり	委員	篠原 美智代
委員	菊池 眞太郎	委員	前沢 幸雄

(欠席委員)

委員	佐藤 優子	委員	唐木 義昭
----	-------	----	-------

4 出席職員

教育長	御園 朋夫	主幹	桐村 久美子
生涯学習課長	生方 和義	主査	前田 雅之
顧問	井口 崇	主任主事	大橋 研太
館長	西原 崇浩		

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

6 報告

(1) ウィズコロナ時代の博物館事業の実践について

7 議題

(1) 博物館をめぐる動向と袖ヶ浦市郷土博物館の今後の展望について

8 議事

伊藤委員長 報告（1）「ウィズコロナ時代の博物館事業の実践について」、事務局より説明をお願いします。

桐村主幹 資料に基づき説明。

伊藤委員長 質問がある方は、お願いします。

菊池委員 youtube 動画の閲覧件数は確認できるのですか？

桐村主幹 確認できます。

菊池委員 数がわかるということですね。

桐村主幹 youtube の視聴回数ですが、412回です。

菊池委員 プラス面の中で収蔵資料と向き合う機会となったというのは、他の館のアンケートでもよく見られますけど、これはうれしい誤算ということになりますね。人が来ない時に資料整理がはかどるといふ。

ここで、もしできれば、収蔵資料と向き合う機会となったというのを可視化・数値化できないかと思ひます。なぜかといふと、博物館はオープンしていないと何もしないじゃないかといふイメージが強い所ですよ。お客さんがいないと中で何をやってるかといふのがわからない。これからコロナ禍がどういふ風が続くかわかりませんが、中でこういうことをやっているといふのを、数値で表すとわかりやすくなるかなといふ気がします。

閉館になった所が私立のところであるといふお話でしたが、公立だとお客さんが来なくてもつぶれなくて、妬み嫉みといふのも少しはあるかと思ひますので、そういう所を頭に入れておいていただきたいと思ひます。

それからもう1つ、疫病の事とか小さな展覧会でもすぐに発信しているという能力はすごいなと思いました。袖ヶ浦でも来年やられるということで、自分の所にどういう資料があるかというのがわかっているからすぐ対応できる。これはすごいことだなと思います。さっきおっしゃったみたいに、いろいろ丹念に、自分の所でできることをやっていただけたらいいなと。見ていると大型館より小型館の方が小回りがきいて、よくやっているような感じです。

伊藤委員長 収蔵資料と収蔵物もいろいろ点検したのですか。

桐村主幹 掃除を兼ねて、普段できないところを点検したりしました。普段しまいこんでいて、何年も見ていなかったものを出して見たりしました。

伊藤委員長 昔のものがいっぱいあるからね。

桐村主幹 収蔵資料と向き合ったことの可視化ということで、菊池委員のお話にもありましたように、資料と向き合ったからこそできる自館のコレクションによる展示がいろいろな館でされていると思います。当館でも来年春に考えておりますのは、当館の収蔵資料をメインとしたものですので、資料と向き合えたことの還元の一つは展示かと思います。

伊藤委員長 博学連携は、どうですか。学校からは来ましたか。

桐村主幹 来ました。

伊藤委員長 バス3台を使って、2回くらい往復して。
人数が多くなったんですか。班を分けて来ましたか。

西原館長 すべての小学校ではないですが、クラスごとに分けてピストンで来て、入れ替えていました。

- 桐村主幹 来たのは2校で、後は博物館の方が行くという形でした。
- 伊藤委員長 密集しないように細かく分けて、対応をお願いします。
あと、その他ありますか？
- 伊藤委員長 報告事項は以上になります。
- 伊藤委員長 議題（1）「博物館をめぐる動向と袖ヶ浦市郷土博物館の今後の展望について」説明をお願いします。
- 桐村主幹 資料に基づき説明。
- 伊藤委員長 何か質問があればお願いします。
- 伊藤委員長 今度、そではく30の展望が28の展望になるとかいうことですか？
- 西原館長 そういう考えもあります。
- 伊藤委員長 これまで見直していないということなので、それはそれで進めていただければいいと思います。皆さんの方から何かありますか？
- 篠原委員 山野貝塚の検討委員会にも出ていたのですが、博物館がガイダンス施設という形だったと思うのですけれど。それをメインで出していただけたらと思うので、「博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるための魅力的な活動が継続されている」の所に「山野貝塚」という言葉を入れていただけるといいかなと思います。
- 伊藤委員長 ぜひ、そういったものも考慮してもらえればと思います。

西原館長 現状では、山野貝塚の取り扱いというのは博物館と生涯学習課でのすみ分けが曖昧な部分もありますが、基本的な考え方としては、管理部門としての生涯学習課、活用部門としての博物館とお考えいただければいいかと思えます。

伊藤委員長 色んな所で山野貝塚を出しておけば、それだけ注目が博物館の方にあつまるとは 아닐でしょうか。前向きに検討してください。

伊藤委員長 その他どうですか。では、検討していただいて、令和4年度、策定するという事によろしいですか。

伊藤委員長 それでよろしいということなので、前向きに検討していただければと思います。

伊藤委員長 その他ということで何かありますか。

西原館長 アクアラインなるほど館の休館状況についてお話をさせていただきたいと思えます。(資料に基づき説明)

伊藤委員長 何か質問はありますか。

伊藤委員長 以上で議事を終わりにしたいと思います。

閉会后、企画展Ⅰ展示解説

令和2年度第2回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

会議次第

日 時 令和2年12月3日(木)
午後2時から3時30分
場 所 郷土博物館 研修室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 報 告

(1) ウィズコロナ時代の博物館事業の実践について

5 議 題

(1) 博物館をめぐる動向と袖ヶ浦市郷土博物館の今後の展望について

6 その他

7 閉 会

報告1 ウィズコロナ時代の博物館事業の実践について

1 コロナウィルス感染拡大と国・日博協の動き

2月～5月 全国の博物館・美術館は休館、職員も在宅勤務が中心になった。

予定していた展覧会・イベントは、中止・延期を余儀なくされる。

コロナウィルス感染拡大に対する 国・日博協の動き	袖ヶ浦市郷土博物館の動き
2月26日 文化イベントに関する自粛要請	3月5日～ 袖ヶ浦市郷土博物館本館休館 アクアラインなるほど館休館
3月30日 文化イベント 対策・自粛強化要請	3月25日～ 旧進藤家住宅休館
4月7日 7都府県に緊急事態宣言	
4月16日 緊急事態宣言を全国に拡大	
5月5日 緊急事態宣言を5月末まで延長	
5月14日 日博協ガイドライン公表	
5月25日 緊急事態宣言解除 日博協ガイドライン改定	

6月 緊急事態宣言解除を受けて、各地の博物館・美術館に再開の動きがはじまる。

	6月1日 袖ヶ浦市郷土博物館開館へ向けての 対処方針策定
	6月2日 袖ヶ浦市郷土博物館再開 「そではく見えてみて!コレクション」開催
	7月18日～ 市民学芸員養成講座開催
	8月19日～27日 博物館実習
9月11日 11月までのイベントについて (収容率および人数制限の緩和)	10月3日～ 企画展I「ごはんの作り方」開催 袖ヶ浦学「西上総の馬乗り馬頭観音」開催
9月18日 日博協ガイドライン改定	10月31日～ 初歩から学ぶ大人のための 縄文講座開催
11月6日 文化観光の推進等に係る令和3年度 概算要求及び税制改正に関する要望について、 日博協より文化庁へ要望書提出	
11月13日 来年2月末までの催物の開催制限、 イベント等における感染拡大防止ガイドライン 遵守徹底に向けた取組強化等について	

2 活動事例にみる博物館・美術館活動へのコロナ禍の影響

ア コロナ休館時の博物館・美術館活動事例

YouTube 動画、「#エア美術館」「#自宅でミュージアム」「#おうちミュージアム」など、インターネット、SNSを活用した情報発信が盛んに行われる。

一方で、普段できない収蔵資料整理や収蔵資料の調査が進んだ。

千葉日報 web 版より

◆制作風景を動画で

3月3日から臨時休館中の県立美術館（千葉市中央区）は、公式ホームページに「おうちでアートを楽しもう」の特設ページを開設。「J o j o（ジョジョ）」の愛称で親しまれるスウェーデン在住アーティスト、ヨセフィン・ヴェイリッシ・ワタナベさんが1月に同館で行ったライブペインティングの動画2本を配信している。同館の大きなガラス窓に向かって、絵の具と絵筆で丹念に描くジョジョさん。短い動画だが、制作風景を間近に見ることで作家との距離が近づくように感じられる。完成作品の画像もアップしており、木々の緑や動物たちが細かく描き込まれた画面からは、早春の北欧の生命感あふれる明るさが伝わってくる。留学でパリを訪れた千葉ゆかりの洋画家、浅井忠の現地での活動を紹介する解説シートも公開。同館の担当者は「家にいる時間が多くなっている人たちにネットを通じて芸術に触れてもらい、少しでも心の潤いとしてもらえれば」と呼び掛ける。

◆インスタグラムを活用

市原湖畔美術館（市原市）は、紙をテーマに制作された中国の現代アーティストの作品を紹介する企画展「雲巻雲舒ー現代中国美術展・紙」の展示作品について、インスタグラムで発信する取り組みを始めた。紙を使いながらも多彩な表現が楽しめる同展の魅力を伝えている。同館は新型コロナの影響で、実質3日半しか同展を開催できないまま臨時休館となってしまった。担当者は「本来は実物を見てもらいたいが、お客さんに何かがあったら困るので仕方ない。インスタは結構見てもらっているようだ。展示会の雰囲気が多くの人に伝わってくれば」と期待する。

◆子ども用に塗り絵

2月29日から休館中の館山市立博物館は、北海道博物館が企画した取り組み「おうちミュージアム」に賛同し、ホームページに特設ページを開設。江戸時代に地元で活動した絵師、勝山調（1762～1838年）の作品「植木売り」と「鬼のかくらん」を基に制作した塗り絵をアップしているほか、同館所蔵の各作品の画像も紹介している。担当者は「長期休校で自宅で過ごす子どもたちに学びの機会を提供するとともに、大人にも芸術・文化に触れてほしい」と話す。

イ 再開時の博物館・美術館活動事例

制限のある中での展示再開。しかし、今しかできない、今だからできることを模索。

非常時の展示

コレクションによる展示

イベントはオンライン等、非接触で

入館予約制の導入

音声ガイド等、アプリの活用拡大

早稲田大学演劇博物館「失われた公演—コロナ禍と演劇の記録／記憶」オンライン展示

早稲田大学演劇博物館（新宿区西早稲田）が、新型コロナウイルス感染症に対応して中止・延期となった演劇公演を記録に残し後世に伝えるため情報収集したチラシなどの公演資料のオンライン展示を行った。

新型コロナウイルス関係資料を収集・展示 吹田市立博物館

大阪の吹田市立博物館は、「新型コロナと生きる社会」という企画展を開催。展示資料はおよそ130点。テイクアウトをしている店のチラシやデリバリーの広告、それにマスクなど、今の日常生活を伝える身近な資料ばかり。3月から収集を行い、開催までにおよそ900点を集めた。

なぜ、こうした資料を集めているのか。担当の学芸員、五月女賢司さんは、「100年後に残すため」という。今回の感染拡大を受けて、五月女さんがスペインかぜの資料が残されていないか調べたところ、吹田市の地域資料としては1つも見当たらなかったということ。今のコロナに関する資料も、貴重な歴史資料になりうるわけだが、このまま何もしなければ、すぐに無くなってしまう。そこで、こうした「もの」を100年後に残すために、収集を続けている。

新型コロナウイルス関係資料を収集・展示 岩手県立博物館

担当学芸員は「特にこのコロナ禍の中で一般の皆さんがどういう暮らしをしていたのかが分かるような、身の回りにあるものを届けてほしい。博物館としては、こういったものは集めるのが難しい。皆さんが使っているマスクの画像1枚でも、これから先の未来で貴重な資料になる。まだまだ終息が見えない中なので、今すぐではなく、役目を終えたものについて寄贈を検討してもらえれば」と話す。

浦幌町立博物館では、「コロナな時代のマスク美術館」を開催し、約30名60点ほどのマスクを紹介した。マスクもマスク以外のコロナ関係資料は開催後も収集を続け、期間中に寄贈されたマスクは、順次展示に加えた。

北海道開拓の村では、ボランティアの解説案内サービスを中止している中、若い学芸員が編み出したアイデア「セルフガイドシート」を製作、活用した。

疫病流行関係等「非常時」の展示

睦沢町立歴史民俗資料館 スペイン風邪の史料を展示（ミニ企画として開催中）

君津市立久留里城址資料館 「疫病ときみつの信仰—道切りを中心に—」（開催中）

千葉県文書館 「千葉県と疫病—くり返す脅威—」（開催中）

袖ヶ浦市郷土博物館 令和3年度企画展I「病と医療（仮）」令和3年5月開催予定

板橋区立美術館では、毎年恒例の「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」を開催。入り口での手指消毒、マスク着用をお願いしている他は、ほぼ例年通りの開催となった。コロナ対策を呼び掛けるグラフィックを制作し、お客様に楽しみながら注意をしていただいた。ボローニャ展は毎年、国内外からたくさんのゲストが集まり、ワークショップ、講演会などのイベントを連日のように開催していたが、今年はすべてのイベントをオンライン開催に切り替えて実施した。内容を5月に考え、6月から動き、そのための特設サイトを制作し動画配信を中心に行った。展示は来年1月末まで巡回するので、サイトは2月まで残す。

(担当学芸員の感想) オンラインで、考えられるだけのイベントは実施しました。新たな可能性もありましたが、リアルで行うより、ずっと大変でした・・・。

アーティゾン美術館 (旧ブリジストン美術館)

2020年1月リニューアルオープン。コロナ禍に先行し、日時指定予約制の導入や、スマホアプリによる所蔵作品音声ガイドの無料化、学生の入館料無料(高校生以上は要予約)、最先端の置換空調システム、入口への危険物探知ゲートシステムの設置、データアーカイブの整備とクラウド環境の充実など、新たな試みを多く導入した。これらは、「お客様に快適な空間で作品を鑑賞していただきたい、最適な環境で美術作品を楽しんでいただきたい」という理念に基づき、リニューアルオープンに合わせて導入を計画していたもので、コロナ対応策として導入したものではない。例えば日時指定予約制などは、旧ブリジストン美術館のファンには中高年層の方も多く、導入には批判的な意見もあったが、近年、入館までに極めて長い時間を要したり、やっと入館しても、人の頭越しに作品を見るような状況が美術展にはあったことを憂慮し、導入を決めた。ほかの取り組みもすべて、展示環境として最適化をしたいという、石橋寛館長の強い意向によるものであった。

ウ 深刻な資金不足と閉館の危機

生き残りへの努力と利用者の理解

文化・芸術への需要の再確認

目黒寄生虫館(東京都目黒区下目黒)では、新型コロナウイルス感染症拡大による来館者の減少によって、寄付金やミュージアムショップ売上の大幅減収が見込まれたため、8月15日から募金を開始し、8月末日までに目標額の500万円を達成した。

ワタリウム美術館(東京都渋谷区神宮前)は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年3月より来館者数は例年の半分以下に減少。小規模なため東京都の休業要請対象には入らず、予約制という形で開館を続けたが、実際は開館休業状態で、週末は閉館。開催予定だったイベントは延期(のちに中止)となった。ワタリウム美術館はノー・スポンサーの個人経営のためチケット収入が主な財源であり、来館者数の減少は、美術館の今後を左右する危機的な状況であったため、目標金額5,000,000円のクラウドファンディングを実施。21,601,100円を集めた。

神戸・水の科学博物館、9月末で閉館へ 30年の歴史に幕 新型コロナの感染防止困難
同館は、水道事業をPRする市の無料施設(指定管理)で、「体験型の展示が多い上、建物の構造から見学者同士の距離の確保や換気が十分にできず、市が新型コロナウイルスの感染防止が難しいと判断したため」閉館に至ったという。市は財政的にも継続が困難だったと説明している。体験学習等で親しまれた博物館であり、市民からは惜しむ声が多くあがった。

3 休館期間中から再開後までの袖ヶ浦市郷土博物館の活動

休館中

- ・開催期間途中で休館となったアクアラインなるほど館ロビー展示「平安時代の〇〇村ー永吉台遺跡ー」について、展示解説を YouTube 動画にて配信した。
- ・企画展Ⅰは秋に延期、秋に開催予定だった企画展Ⅱは次年度に延期となった。
- ・ミュージアムフェスティバルは延期（後に中止）となった。
- ・袖ヶ浦学、市民学芸員養成講座、市民学芸員自主企画は延期となった。
- ・休館中は、主として収蔵資料の整理、調査・研究を行った。
- ・ツイッター「#土偶リレー」に参加した。
- ・おうちミュージアムは、生涯学習課で参加した。

再開

- ・ロビー展示「そではく 見てみてコレクション」を開催。明治のコレラ流行時に発せられた千葉県令・柴原和の告諭を展示した。
- ・映像展示の解説シートを作成した。
- ・アクアラインなるほど館は換気の問題があるため、引き続き休館とした。
- ・博学連携は学校の要望に合わせて実施したが、一部は来館しての体験学習を学校へのアウトリーチへ変更した。
- ・袖ヶ浦学等の講座は会場を根形公民館視聴覚室として実施した。
- ・博物館実習は、期間と1日の時間を短縮して実施した。
- ・夏休みこどもイベントは食物の提供をやめ、一部内容を変更し、募集人員を減らして実施した。

4 博物館・美術館へのコロナ禍の影響

●コロナ禍が与えた博物館・美術館へのマイナス側面

- ・展覧会・イベントの中止、延期
- ・再開後も大きな展覧会やイベントを企画しにくい
- ・ハンズオン展示や博学連携等接触型イベントの後退
- ・資金不足、閉館の危機

●コロナ禍が与えた博物館・美術館へのプラス側面

- ・収蔵資料と向き合う機会となった
- ・人材育成の機会となった
- ・これまでの方法を検証して、新たな方法を模索し、実施する機会となった（ブロックバスター展から、ニューモラルへ。デジタルコンテンツの活用拡大等）

議題 1 博物館をめぐる動向と袖ヶ浦市郷土博物館の今後の展望について

提案理由

『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく30の展望－』は、袖ヶ浦市教育ビジョンで示した施策等を実現していくため、博物館の4つの使命を遂行するための6つの分野の活動目標を掲げ、博物館が目指す30項目の「あるべき姿」を示すとともに、それを達成するためのアクションプランを示したものであるが、平成24年に策定以来、これまで見直しはされていない。

一方、近年の博物館をめぐる動きとしては、「文化芸術振興基本法」改正にも見られるように、観光・まちづくりをはじめとした様々な分野で、博物館の持つ可能性や生み出す価値が着目され、社会が博物館に期待する役割は大きくなっている。

そのような時流の中で『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく30の展望－』の示す「あるべき姿」が適切に機能しているか、現状に合わせ修正する必要があるかを見直し、SDGsという全人類的な目標も視野に入れて、開館40周年に当たる令和4年度に「新そではく30の展望」を策定することを検討している。これについて、検証の方法や作業の進め方等も含め、意見を求めたい。

1 博物館をめぐる法改正等と地域発展への貢献の期待

ア 平成29年6月23日 文化芸術振興基本法の一部を改正する法律公布

「文化芸術基本法」の誕生

・文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策を文化芸術基本法の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用しようとするもの。

イ 平成31年3月8日閣議決定

「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律案」 (第9次地方分権一括法案)

→地方公共団体に対する義務付け・枠付けの見直し等（12法律）に

「社会教育法、図書館法、博物館法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

公立社会教育施設（博物館、図書館、公民館等）について、地方公共団体の判断により、教育委員会から首長部局へ移管することを可能にした。

・社会教育の適切な実施の確保に関する一定の担保措置を講じた上で、地方公共団体の判断により首長部局へ移管することを可能とする。

ウ 令和2年4月 新学習指導要領の改訂

・新学習指導要領のポイントとして第一に挙げられている「社会に開かれた教育課程」

よりよい教育課程を通じてよりよい社会を作るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容を明確にしなが、社会との連携・協働によってそのような学校教育の実現を図ることを目指すものをいう。

・子どもたちには、知識を活用し、自ら課題を見つけ、解決のために対話する力が求められ、学校から出て地域の中で学ぶことが推奨されている。

→幅広い世代と関わる博物館・公民館・図書館等、社会教育施設の果たす役割に期待されている。

2 博物館と「持続可能性」と社会的役割

ア SDGs（持続可能な開発目標）

17の目標と169のターゲット（達成基準）を2030年までに挙げられた課題を解決し、達成することが求められている。

目標4（質の高い教育をみんなに）のターゲットに「2030年までに持続可能な開発のための教育および持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての科学者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする」とある。

目標11（住み続けられるまちづくりを）のターゲットに「世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する」がある。

SDGs 17の目標

目標1～6「社会」

貧困・飢餓・健康福祉・教育。ジェンダー・水・エネルギーなど人間が人間らしく生きていくための社会に関する目標

 <p>1 貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ</p>	 <p>4 質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的(※)かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する</p>
 <p>2 飢餓をゼロに 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する</p>	 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る</p>
 <p>3 すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進する</p>	 <p>6 安全な水とトイレを世界中に すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する</p>

目標7～12「経済」

雇用・格差・経済成長・生活インフラなど、最低限の暮らしの保証からより良い暮らしに関する目標

 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する</p>	 <p>10 人や国の不平等をなくそう 国内および国家間の格差を是正する</p>
 <p>8 働きがいも経済成長も すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する</p>	 <p>11 住み続けられるまちづくりを 都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする</p>
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る</p>	 <p>12 つくる責任 つかう責任 持続可能な消費と生産のパターンを確保する</p>

目標13～15「環境」

気候変動問題・海と陸の資源に対して、人間だけでなく動植物が暮らす自然の持続可能性に関する目標

 <p>13 気候変動に具体的な対策を 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る</p>	 <p>16 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する</p>
 <p>14 海の豊かさを守ろう 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する</p>	 <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する</p>
 <p>15 陸の豊かさを守ろう 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る</p>	

イ 博物館とSDGsのあゆみ

平成25年9月 国連総会でSDGsが採択される。

平成29年11月 第65回全国博物館大会

基調講演「持続可能な社会に向けた博物館の役割」

- ・文化に関する目標が示されていないのは理解に苦しむが、分散した文化的な側面を横断的な課題として取り上げることが求められるのは可能である。

平成29年11月 世界科学館サミットにおいて、SDGsの達成に向け科学館が活動を推進していくための行動指針「東京プロトコール」採択される。

- ・科学館関係者の方が早くから普及に取り組んでおり、美術・歴史系では認識薄い

令和元年10月 ICOM京都大会開催される。

プレナリーセッション「博物館を通じて実現する持続可能な社会」

- ・博物館がSDGsについて主要な役割を担うという決意表明
- ・科学系博物館の担う役割の大きさ
- ・世界の博物館の潮流は持続可能性やSDGsを目標ではなく、活動に落とし込み始めている。
- 2つの決議採択
- ・『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ』の履行
- ・博物館、コミュニティ及び持続可能性

令和2年9月 ICOM京都大会1周年記念シンポジウム「SDGsと博物館」開催される。

基調講演より

「文化はSDGsにおいて重要な役割を果たしている。教育、ヘルスケア、公衆衛生、エネルギー、その他のセクターと同様に、文化、特に博物館には、SDGsを館の仕事として実践する責任がある。このことによって博物館に新しい機会を提供するだけでなく、責任感も高まると思われる。」

ディスカッションより

「SDGsの目標は、どこか理想論的・抽象的で、近頃の博物館活動との間に距離がある。貢献しているという姿勢ではなく、貢献によって生まれた変化を重視すべきと考える。博物館はSDGsへの貢献を目的化するのではなく、博物館の運営の手段として利用すべきではないだろうか。」

SDGsを達成するためには、博物館の新たな機能や役割を創出しながら、そのための方策を追求していくことが重要である。

日本の博物館がSDGsの推進機関となることの障壁

- ・社会的課題を解決する場として、博物館の認知を進め、期待を高める必要がある。
- ・博物館法の改正による博物館の体制強化（予算・人員配置の拡大）が必要である。
- ・学芸員の意識と専門性。個人の専門性を高めるとともに、博物館人としての展望や規範の確立が必要である。

◎無理のない活動のための無理のない体制の確立が不可欠である。

3 袖ヶ浦市郷土博物館の社会的役割と今後の展望

そではく30の展望 「活動指標」と「あるべき姿」の課題

活動指標	あるべき姿	課題	R1年度評価
(1)地域の資(史)料を守る —資(史)料の収集と保管—	1.収蔵するすべての資(史)料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。	「資(史)料」は「資料」でよいのでは。	◎
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた史料群が適正に管理され、活用できる環境が整っている。	(1)の中で、地域資料の積極的な収集について触れられないか。	○
	3.収蔵資料は定期的に総点検され、保存(廃棄)・修復等が適正に行われている。		○
(2)地域を探り、発信する —調査研究の深化と革新—	1.市民のニーズを捉え、これにマッチした中長期的な調査研究テーマが設定され、調査研究が継続的に行われている。		◎
	2.収蔵資料に関する情報の追加・修正が恒常的に行われている。	2と3は内容が近いので、統合してはどうか。	○
	3.地域資料に関する情報が集積する場になっている。		◎
	4.調査研究の成果が公開されている。		◎
(3)学習・知的交流の拠点になる —展示更新と市民参画—	1.市民の意向に基づいた常設展示の更新計画があり、調査研究の成果が反映された展示となっている。		◎
	2.利用者が身近なものとして資料を捉えることができ、新たな発見や気づきがあるような展示になっている。	2と3は内容が近いので、統合してはどうか。	◎
	3.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっている。		◎
	4.企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えることや地域資料の有効活用が図られている。		◎
	5.市民が自らの意志で参画し、常設展の更新や企画展などが開催されている		○
	6.情報機器が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。		◎
	7.博物館に縁遠かった人びとを呼び込み、利用者層・数を拡大する工夫がこらされている。		◎
	8.市民の知りたいこと、学びたいことをリサーチし、ニーズに応える形で講習・講座等が実施されている。		○
	9.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。		◎
	10.図書資料の活用が図られるとともに、コピーサービスなどの体制がつけられ機能している。		△

	11.新旧住民の交流の場となり、文化の掘り起こしが行えるような工夫がある。	新旧住民の交流の場という表現は必要か。文化の掘り起こしとは何か。	○
	12.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。		○
	13.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。		○
(4)地域のつながりを活かす ―地域連携の展開―	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。	配置は(2)の方がよいのでは	○
	2.博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。		○
	3.地域連携によって新たな価値が発見・創造され、その成果が発信されている。		○
	4.博学連携が効果的に機能し、子どもたちの学びがサポートされている。	学びサポートだけで博学連携と言えるか	◎
	5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。		○
(5)安心・安全な施設にする ―改善と維持管理―	1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられている。		○
	2.バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づいて安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。		△
(6)袖博らしさを追求する ―マネジメント力の強化―	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	袖ヶ浦公園の市の観光拠点としての側面も強調したい	○
	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるための魅力的な活動が継続されている。	ボランティアや市民学芸員といった文言を入れてはどうか	○
	3.市民と共に歩む博物館として認知され、高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家の人材の確保・育成ができています。	配置は(2)の方がよいのでは。人材の「確保・育成」は「交流」くらいの方がよいのでは。	○
		(6)の指標は、意図が伝わりにくい。「地域に貢献する」等の方が内容に合うのでは。	

「新そではく30の展望」策定までのタイムスケジュール案

令和2年度	第2回 袖ヶ浦市郷土博物館協議会にて、提案
令和2年度～4年度	見直しについて、検討・審議 (博物館協議会委員・市民学芸員・博物館友の会員等)
令和4年度	袖ヶ浦市郷土博物館協議会に提案、「新そではく30の展望」策定

新型コロナウイルス感染予防の対応状況に係る 緊急アンケートの結果について

公益財団法人日本博物館協会

今回実施した緊急アンケート調査は、当協会が発行する月刊誌「博物館研究」2020年11月号誌上で、当初予定した特集テーマを変更して「コロナウイルスと博物館」を取り上げるに際し、博物館における対策の状況や運営上の課題を共有し、各館の今後の運営に資するとともに、今後の国等の博物館への支援策にも反映させることを目的として実施しました。ご多忙の中、ご回答いただきました施設の皆さまに、改めて御礼申し上げますとともに、緊急アンケートの結果の概要をご報告します。

本アンケート結果を、各施設における今後の運営の参考としていただければ幸いです。

当協会といたしましても、回答結果とともにお寄せいただいたご意見を踏まえ、今後の感染予防対策に取り組んでいく所存です。

なお、必要に応じ今後も継続的な調査を実施する予定ですので、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

◎今回実施したアンケートの概要

- ・ 目的：博物館園職員を対象に、新型コロナウイルス感染予防対策、現場の事業展開、現状と今後への課題等について調査し、その結果を共有するとともに今後の支援策の立案にも活用する。
- ・ 実施期間：平成29年9月1日（火）～9月15日（火）
- ・ 実施方法：WEBアンケート形式。回答は指定回答用URLから入力。
- ・ 設問数：46問（必須回答を含む）（項目選択式及び一部自由記述）
- ・ 回答施設数：709館

* 今回のアンケートの結果については、自由記述のコメントも含め、日本博物館協会のホームページで公開していますのでご参照ください（なお、施設名は非公開です）。

Q1～Q5は回答者情報のため割愛します。

新型コロナウイルス感染症対策関連トピックス（文化庁発出文書を中心に）

1月24日	感染予防に関する注意喚起	5月14日	日博協ガイドライン 公表
2月12日	イベント等における留意点	5月17日	「緊急事態宣言」大都市圏を除き先行解除
2月26日	文化イベント開催に関する自粛要請	5月25日	緊急事態宣言解除/日博協ガイドライン改定
3月30日	文化イベント 対策・自粛強化要請	9月11日	11月までのイベント開催について
4月7日	7都府県「緊急事態宣言」	9月18日	日博協ガイドライン改定
4月16日	「緊急事態宣言」を全国に拡大		
5月4日	「緊急事態宣言」解除を5月末まで延期		

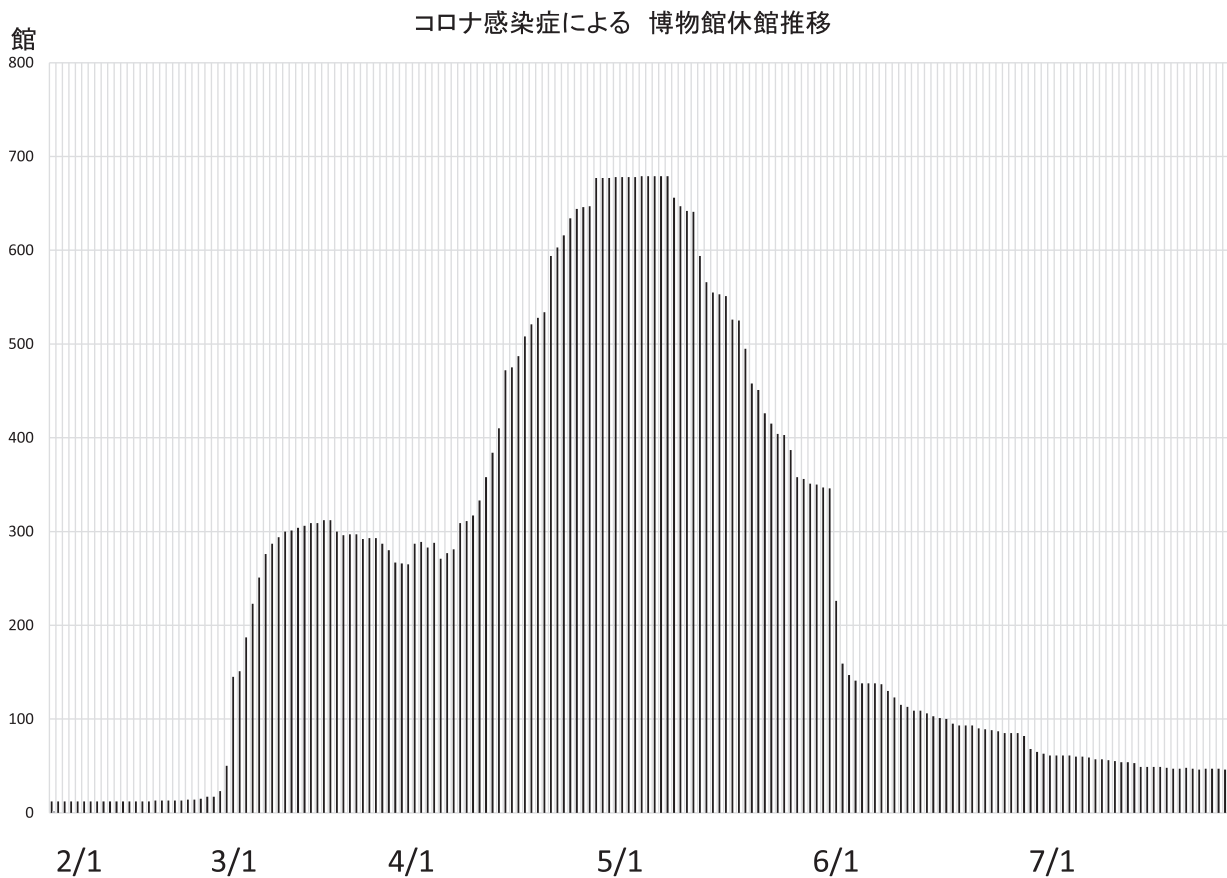
Q6. 前年度の総入館者数（現在わかる最新の総入館者数）を教えてください。

5,000未満	62館
5,000～30,000未満	231館
30,000～100,000未満	186館
100,000～500,000未満	182館
500,000以上	43館
無回答	5館
全体	709館

Q7. 現在開館していますか？

はい	658館
いいえ	50館
無回答	1館
全体	709館

Q8. (休館していた館にお聞きします) いつから休館していますか？



Q9. 職員の出勤前後の体調チェックについて（複数回答可）

検温	521館
本人の体調の報告	491館
本人の家族の体調の報告	137館
特になし	71館
無回答	3館
全体	709館

その他（具体的に）	53館
無回答	4館
全体	709館

- ・手指の消毒、取っ手など手の触れるものの消毒の徹底、手袋・フェースシールドの着用、ソーシャルディスタンスの確保が基本
- ・来館者からの質問等について、展示室等での口頭による回答は休止し、できる限りメールで対応。
- ・執務室内への一般客の立ち入り制限

Q10. 職員の飛沫防止対策について（複数回答可）

マスクの着用	704館
フェイスシールドの着用	252館
ビニールシート・アクリル板等の仕切り	563館
特にしていない	0館

Q11. 職員の感染防止に対応した勤務や業務体制の実施について

あり	455館
なし	251館

無回答	3館
全体	709館
Q12. 「あり」の場合の具体例について（複数回答可）	
時差勤務	195館
時短勤務	63館
在宅勤務	304館
グループシフト体制	85館
会議のオンライン化	146館
その他（具体的に）	66館
無回答	10館
全体	455館
○職員の感染防止に対応した勤務や業務体制の実施について	
・勤務シフト調整、開館時間短縮、執務場所分散、在宅勤務、特別休暇、出張・会議の制限	
Q13. 来館者のマスクの着用の義務・推奨について	
あり	696館
なし	5館
無回答	8館
全体	709館
Q14. 「あり」の場合のマスクがない来館者への対応について	
退館を要請	66館
館で準備したマスクを提供	381館
その他（具体的に）	229館
無回答	14館
全体	690館
○マスクがない来館者への対応について	
・館によって対応が分かれているが、一番多かったのはミュージアムショップ等の売店でマスクを販売し、購入してから入館するようにお願いする対応である（1枚50円で販売するケースが大半）。ショップがない場合は、近隣のコンビニ等を紹介。	
・次に多いのは、簡易マスクの無償提供で、素材はキッチンペーパーが主流である。一部、寄附をお願いするケースもみられる。	
・ハンカチ等の代用を要請するケース、咳エチケットの順守を求めるケースがこれに続く。	
・注意喚起のみで、入館を許可する館も多くみられる。	
・少数派ではあるが、マスク非着用者の入館を拒否する館も存在する。	

Q15. 来館者への検温の実施について	
あり	445館
なし	252館
無回答	12館
全体	709館
Q16. 「あり」の場合の検温方法について	
非接触型体温計	297館
赤外線サーモグラフィカメラ	115館
その他（具体的に）	29館
無回答	2館
全体	443館
・非接触型体温計とサーモグラフィカメラを併用する施設も多い。	
・赤外線サーモで異常が検知されたら非接触型、接触型で確認したり、団体受入時は「サーモグラフィカメラ」使用といった使い方をしている。	
・温度測定顔認証カメラDG-T104（体温とマスクの有無を非接触で自動検知）という施設もある。	
Q17. 来館者の居住地の制限について	
あり	30館
なし	667館
無回答	12館
全体	709館
Q18. 「あり」の場合の制限の区分	
都道府県内に限定	10館
市町村内に限定	3館
その他（具体的に）	14館
無回答	3館
全体	30館
・首都圏、北海道で感染が拡大していたときは、感染拡大地域は入館を遠慮願った。	
・緊急事態宣言時の県外から来館制限後、茨城県のコロナ対策stage4での東京都内から来館の制限。現在は全て解除。	
Q19. 来館者の個人情報の取得について	
あり	400館
なし	290館
無回答	19館
全体	709館
Q20. 「あり」の場合の情報取得方法について	
当日来館時に取得	302館
（事前予約制を導入しているので）	41館
事前予約時に取得	

情報取得アプリ（COCOA等）のダウンロード推奨	16館
その他（具体的に）	38館
無回答	3館
全体	400館

○来館者の個人情報取得方法について

- ・入館時にCOCOA（厚生労働省のアプリ）や各地方自治体のアプリのダウンロードをお願いする事例が多い。
- ・事前予約制で予約時に情報を取得
- ・イベント・講座開催時に情報を取得
- ・連絡先記入シートを用意し、任意でお願いしている事例もある

Q21. 来館者の人数制限について

あり	492館
なし	202館
無回答	15館
全体	709館

Q22. 「あり」の場合の人数制限の基準について

館全体の収容人数	227館
フロア（エリア）ごとの収容人数	188館
時間制による入れ替え	21館
その他（具体的に）	54館
無回答	2館
全体	492館

- ・一番密になりやすい場所（ボトルネック）から算出
- ・団体入館者数・エレベーター乗降者数・駐車台数を制限
- ・職員の監視により、来館者の間隔が取れないと判断した場合
- ・展示動線に基づき、1m間隔確保が可能な人数
- ・公募団体へ貸出している公募展示室の入室判断は、各団体による。

Q23. 来館事前予約について

システム（web）を導入した	55館
システム（web）の導入を検討中	36館
導入予定なし	471館
電話予約で実施している	61館
その他（具体的に）	69館
無回答	17館
全体	709館

- ・再開館後の約一ヶ月間のみ実施（web）
- ・団体の場合は可能な限り事前予約をお願いしている。

Q24. 来館者の3密回避の方策について

あり	658館
なし	37館
無回答	14館
全体	709館

Q25. 「あり」の場合の具体策について（複数回答可）

ソーシャルディスタンスの表示	608館
職員による呼びかけ	449館
その他有効な策があれば記入してください	110館
無回答	1館
全体	658館

○来館者の3密回避策「あり」の場合の具体策について

- ・滞留時間を下げるため、自由導線を強制導線に変更
- ・施設内一方通行規制の実施
- ・展示解説等の人数制限
- ・立ち止まって見学する時にはフットプリントのシールの貼り付けで場所を特定させる。
- ・入館時間を7部に分割
- ・ゴム手袋を配布し、着用をお願いする。
- ・展示室内における会話の禁止
- ・過密想定箇所の閉鎖
- ・整理券システムの導入

Q26. 入館時のアルコール消毒の実施について

あり	694館
なし	3館
無回答	12館
全体	709館

Q27. 入場券のキャッシュレス化について

導入した	134館
検討中	149館
導入の予定なし	389館
無回答	37館
全体	709館

Q28. 年間パスポートの取扱いについて

従来通り実施中	211館
今年度は取扱いを休止	19館
その他（具体的に）	331館
無回答	148館
全体	709館

- ・休館期間相当分を有効期限延長
- ・パスポートの有効期限が年度内のため、希望者には払い戻しを行った

- ・今後開催される展覧会の入場券配布の拡充や特典（マスクケース）を作成し、会員へ還元するなどの対応を現在検討中。
- ・年間パスポートはないが、無制限で観覧できる友の会については、年会費を減額した。
- ・保持者には大幅延長措置、新規購入者は将来の延長を鑑みて、+2か月で発行した。

Q29. ボランティア活動について

従来通り活動中	90館
活動分野に限り活動中	166館
休止中	251館
無回答	202館
全体	709館

Q30. 展示柵、展示ケース、展示物への消毒の頻度について

利用するたび	55館
数時間に1回	382館
1日1回	178館
していない	72館
無回答	22館
全体	709館

Q31. 施設内の空調管理・換気対策について

あり	647館
なし	43館
無回答	19館
全体	709館

Q32. 「あり」の場合、その具体策について（複数回答可）

空調設備、整備済	348館
空調設備の新調・購入	54館
空調設備の修繕	72館
定期的な窓・扉の開放	415館
その他有効な策があれば具体的に	55館
ご記入ください	

無回答	4館
全体	647館

○施設内の空調管理・換気対策の具体策について

- ・大型バーキュームによる一方向吸気排気
- ・オゾン発生機導入
- ・大型扇風機での送風
- ・全館外気導入空調運転及び排気運転を会館時間中実施。除菌機能付空気清浄機を設置。

Q33. 休館中に学芸系職員が取組んだ（でいる）主たる業務について（複数回答可）

収蔵資料整理・調査	550館
収蔵庫・展示室等の環境整備	452館
出張を伴う調査研究業務	44館
館外授業（含むりモート）	65館
その他（具体的に）	188館
無回答	43館
全体	709館

- ・次回展以降の準備や中止になった展覧会の対応が主体であったが、SNSやWebを利用したの博物館情報の発信やホームページの充実、「おうちミュージアム」の配信、また、職場だけでなく在宅での調査研究に追われた学芸員が多かったようである。

- ・その他では、ボランティアや非正規雇用職員への研修・監督、自治体イベントへの出展等地域連携活動、コロナ対応体験キットの制作等事例があった。
- ・動植物園・水族館では通常と変わらず、飼育・栽培が主業務であった。

Q34. 休館中のWEB等による博物館情報等の発信について

実施した	511館
しなかった	189館
無回答	9館
全体	709館

Q35. 「実施した」場合の発信したコンテンツの種類について（複数回答可）

施設紹介	260館
展示紹介・解説（企画展・イベント紹介含む）	387館
児童生徒向けプログラム	127館
その他（具体的に）	94館
無回答	2館
全体	511館

○休館中のWEB等による博物館情報等の発信を実施した場合のコンテンツの種類について

- ・おうちで日本画サイト
- ・地域の自然情報の発信、動画の配信
- ・本来美術館内にて実施する予定だった「絵手紙コンテスト」を応募式に変更して実施中
- ・ダウンロードできる工作キットの紹介、オンラインワークショップ
- ・飼育生体の生体解説等（食事風景等）
- ・美術館クイズの出題、収蔵作品塗り絵の作成（ホームページ等からダウンロード）

Q36. 「実施した」場合の使用したメディアの種類について（複数回答可）

公式ホームページ	432館
Twitter	258館
Instagram	132館
Facebook	247館
YouTube	197館
Zoom	18館
ニコニコ動画	5館
TikTok	0館
その他（具体的に）	27館
無回答	1館
全体	511館
・特別展共催者が用意した動画配信サービス「Hulu」	
・地元ケーブルテレビ	

Q37. イベントプログラム（講演会・ワークショップ・解説員による展示解説・映像上映会・観察会・イルカショー等の実演会等）の実施について

三密対策をして予定通り実施	55館
一部中止または延期	415館
全部中止	189館
該当イベント・プログラムなし	40館
無回答	10館
全体	709館

Q38. 学校・一般の団体の受入について

通常通り	223館
対象により制限	328館
中止	137館
無回答	21館
全体	709館

Q39. 博物館実習生の受入について

従来通り実施	235館
時期を変更して実施	71館
人員を制限して実施	38館
その他（具体的に）	259館
無回答	106館
全体	709館
・館外施設見学など外での実習をなるべく控えて、館内で済ませるように内容を組んだ。	
・館内はロビー・展示室のみ入館、実習は市内の開館している館の見学を実施。それをレポートにして提出してもらう。	

Q40. 現時点での経営上・運営上の課題は？（複数回答可）

事業計画の中止・延期による調整	516館
感染防止対策への対応（経費の面）	437館
感染防止対策への対応（人手の面）	389館
財政・予算（来年度以降の対策）	464館
事業継続への問題	191館
その他（具体的に）	48館
無回答	21館
全体	709館
・入館者減少による収入不足と、減少した入館者数の回復方策	
・現在中止している事業の再開の時期及び条件について	
・フレキシブルな会期設定と情報発信	
・設置者のリーダーシップや現場意識の向上	
・次年度以降の状況が見通せない中での自己収入ノルマ設定	
・ボランティアスタッフの活動離れへの懸念	

Q41. 今後必要と思われる行政や援助団体からの支援は何ですか

(行政の支援依頼)

・コロナ感染症対策には継続的な支援が必要なので、消毒液・マスク等の補助金は来年度も必要である。	
・タッチパネル式展示設備に代わる人感センサー等で作動する設備の導入費用の援助	
・展覧会事業そのものの助成	
・3密回避のために、講演会などに大きな会場を借りる際の公共施設利用料の減免やWeb講演会を行うための機材レンタル料の補助	
・イベントや大規模企画展等、一時的に借りられる検温のためのサーモグラフィーのレンタル制度	
・オンライン配信での資料の著作権緩和	
・オンラインを活用した事業に対する支援（所蔵品DB公開、Webによる教育普及等）	
・館内のWifi環境整備、ネット上での資料公開のためのデジタル撮影費用の支援	
・貸館業務が重要な財源となるので、そのキャンセルに関する営業補償	
・指定管理者の一般会計（管理費）への支援	
(全般への支援依頼)	
・文化・芸術を発信する博物館の存在の重要性を世の中に理解してもらうための働きかけ	
(提言)	
・独立行政法人制度や利用料金制の指定管理者制度により、自己収入増に取り組んでいた館ほど減収	

の影響が大きい。今後、政府として自己収入増の取組を推進するのであれば、このような時にセーフティネットを整備していただかないと、改革が進みにくくなるのではないか。

Q42. 博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン（以下、「ガイドライン」は役に立ちましたか？

大いに役に立った	188館
役に立った	399館
まあ役に立った	96館
役に立たなかった	7館
無回答	19館
全体	709館

Q43. 現時点でガイドラインに対する意見があればお書きください。

- ・今後の感染状況や社会状況の変化に伴い、必要に応じた更新を望む。
- ・館内の感染症対策マニュアルを作成する際の参考にした。
- ・万が一、感染したときの博物館における拡大予防ガイドライン（対処法・手順）があると、速やかな対応が取れ、安心できる。
- ・展示品・文化財の保存に対する考え方が示されていなかった。
- ・具体的な消毒方法等の情報を掲載して欲しかった。
- ・参考にはなったが規模の小さい施設のためガイドラインの内容が現実的でない面があった。
- ・ハンズオンの展示がほとんどの科学館としては、接触感染を防ぐためにどうすべきかという課題がある。

Q44. 今回のコロナ禍が逆に運営や業務上でプラスになったと感じたことはありますか？

ない	425館
ある（具体的に）	255館
無回答	29館
全体	709館

（職員の意識改革）

- ・職員が新しいアイデアをまとめたり、これまでの業務を振り返ったりする時間ができ、運営の改善を進めることもできた。
- ・今まで実施したことのない、児童クラブなどへ出向いたワークショップの実施を行い、業務の幅が広がった。

（来館者への気づき）

- ・遠出ができない分、県内や市内の来館者が増えた。
- ・展示室内での私語が減った。

（業務の見直し）

- ・働き方や、美術館の運営面において新たな視点を得ることができた。
- ・オンライン事業への挑戦の機運が高まった。
- ・インターネット上での情報発信について、明確に意識するようになった。
- ・普段時間を割けなかった収蔵資料調査が進んだ。
- ・総入館者数における無料入館者（コンサート等めあて）が減り、純粋に展示を鑑賞したくて来る有料入館者の割合が上昇（有料入館者の総数自体は以前の水準に戻りかけている傾向が顕著）

Q45. 今回のコロナ禍をきっかけに博物館はどう変わるべきと思われますか？今後の望ましい博物館像についてご自由にお書きください。

- ・集客だけにとらわれない事業のあり方、より地域に密着した活動、展覧会だけではない地域の特色や魅力発信の方法を検討すべき。
- ・地元の博物館・美術館が興味深く、楽しくゆったり、かつ安心して時間が過ごせるような場所、利用してもらえ場所にならなければと感じた。
- ・博物館・科学館があることで市民にとって「よかった」ことをどう数値化するのかを考えていくべきかと思う。
- ・その地域のことを地道に調査研究し、その成果を地域に還元していくという、基本理念に立ち返るべきと思いました。
- ・比較的年配の方を中心に集客してきた館については、新たな客層への切り替えが必須。過去の縛りに捕らわれることなく、柔軟にアイデアを出し合っていきたい。また、観光事業者との連携をより一層強め、待つことなく、積極的に営業活動を行う。
- ・ハンズオンに拘らない新しい体験型の展示、ワークショップのあり方を模索すべき。
- ・来館者一人ひとりが、博物館でどう過ごし、どう展示物と向き合うのか、そうした機会をどう提供し、個々の活動に働きかけることができるか、博物館のもつ「人・もの・こと・場」を活用し、人々の興味や関心を刺激できるか・・・内容の充実について検討する機会になればと思います。
- ・各館が所蔵する「本物」を目にすることが出来るという博物館の強みを活かした事業を再確認する。それが地域の人々に地元の歴史および人間の知恵の結晶である資料を伝えていくという原点を

改めて人々にPRできると思う。

- ・ローカルな情報を対面で収集すること（主な対象は高齢者）が多い地域密着型の博物館にとって、情報・資料収集機能をどう確保するかは大きな課題となろう。
- ・要不要の選択肢のなかで、文化が要とされるよう、博物館施設は利用者に寄り添うべきと考える。コロナ禍での来館者層は、動機・意志を持って来館し、滞在時間も長い傾向があり、このような愛好者を手がかりに、市民に失望されないような活動が必要だと感じる。
- ・収益性の高い特別展覧会などが不可能となり財政状況が厳しく、かつ国内外の人々（特に若年層）が実物資料に触れる機会が低減したことは、博物館活動の意義の低下を意味する。来館を促すのではなく、インターネットや先端技術を活用し、資料そのものの価値を自ら積極的に発信することで来館者を資料へ訴求させる必要がある。一方で実物資料との対話によって得られる情報は特別であり、来館時の対話をより深化させる工夫が必要。
- ・来館し実物を見ることが難しい状況が続く中では、web活用による公開等も止む無しとは考える。一方で、一定の感染防止対策を講じた上での展示公開や調査研究成果の発行等は粛々と行っていくべきで、その意味では、大きな変化は必要ないものと考ええる。
- ・リモートを活用した事業の展開が必要と考えられる。また、博物館に足を運ばなくても、リモート活用することで、展示紹介等が活発化したので、誰にでも活用しやすい学習施設としての博物館像を検討していくべきではないかと考える。
- ・安近短のレジャーが主流となり近場の施設が利用

されることが、予測される今後の感染症の多発等を考えると最高の強みとなるのではと思います。

- ・よりよい鑑賞環境＝展示品の保全環境の提供という意味では入館予約制は普及してもいいと考える。

Q46. 今回のコロナ対策に係る日本博物館協会へのご意見・感想等をご自由にお書きください。

- ・他館はどうしているかということが気になる。必要な意見をピンポイントで聞けるように、加盟館が自由に書き込める掲示板（質問箱やミニアンケート）があると助かる。
（例）来館者の入館の動線はどうしていますか？等
- ・他館の新型コロナウイルス拡散防止ガイドラインが知りたい。
- ・小さい館はまず、「博物館協会」がどのように対応しているかを参考にす。素早い情報発信を期待する。
- ・除菌、空調などの対策に効果や実績のある事例を紹介してほしい。
- ・補助金があったおかげで前向きに館の再開について検討することができた。
- ・「おうちで・学校で博物館」のような、各園館共通の新たな取組について、引き続き声掛け、旗振りを担っていただきたい。
- ・文化庁の支援（補助）が大規模館の先進的な事業や観光のような成果がすぐに数字で出るようなものに偏っているように感じます。コロナ禍により財政が悪化した場合、小規模館の地道な活動がより苦しくなると思いますので、そのようなものに対する支援・補助が行われるよう、意見の集約と文化庁への働きかけを期待します。

3 袖ヶ浦市郷土博物館の社会的役割と今後の展望

そではく30の展望変更案

現在の「活動目標」	「活動目標」変更案	現在の「あるべき姿」	「あるべき姿」変更案	見直しのポイント	R1年度評価
(1)地域の資(史)料を守る—資(史)料の収集と保管—	(1)地域の資(史)料を守る—資(史)料の収集と保管—	1. 収集するすべての資(史)料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。	1. 収集するすべての資(史)料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。	資(史)料を資料にして、わかりやすく	◎
		2. 市史編さん事業で収集・管理してきた史料群が適正に管理され、活用できる環境が整っている。	2. 市史編さん事業で収集・管理してきた古文書類史料群が適正に管理され、活用できる環境が整っている。		○
		3. 収集資料は定期的に総点検され、保存(廃棄)・修復等が適正に行われている。			○
			4. 地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、積極的に情報を集め、資料の収集にあたる。	(新規) 地域資料の積極的な収集について触れられないか	
(2)地域を探り、発信する—調査研究の深化と革新—			1. 袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。	(4)から移動	○
		1. 市民のニーズを捉え、これにマッチした中長期的な調査研究テーマが設定され、調査研究が継続的に行われている。	2. 1. 市民のニーズを捉え、これにマッチした中長期的な調査研究テーマが設定され、市民のニーズについて定期的に調査し、これらを反映させた調査研究が継続的に行われている。		◎
		2. 収集資料に関する情報の追加・修正が恒常的に行えている。	3. 2. 地域資料に関する情報が集積し、する場になっている。収集資料に関する情報が常に更新されている。追加・修正が恒常的に行われている。	2と3を統合	◎
		3. 地域資料に関する情報が集積する場になっている。	4. 地域の自然・環境に関する調査研究が継続的に行われている。	(新規) SDGS目標13~15	◎
		4. 調査研究の成果が公開されている。	5. 4. 調査研究の成果が公開されている。		◎
			6. 市民と共に歩む博物館として認知され、高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家といった人材との交流確保・育成ができています。	(6)から移動	○
(3)学習・知的交流の拠点になる—展示更新と市民参画—		1. 市民の意向に基づいた常設展示の更新計画があり、調査研究の成果が反映された展示となっている。	1. 市民の意向を反映したに基づいた常設展示の更新計画があり、展示に調査研究の成果が還元されている反映された展示となっている。		◎
		2. 利用者が身近なものとして資料を捉えることができ、新たな発見や気づきがあるような展示になっている。	(削除)	2と3の内容が近いので、2の一部を3に追加し、2を削除	◎
		3. 展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっている。	2. 3. 展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっており、いる展示から新たな発見や気づきがある。		◎
		4. 企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えることや地域資料の有効活用が図られている。	3. 4. 地域資料を有効活用した企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えるものとなっていることや地域資料の有効活用が図られている。		◎
		5. 市民が自らの意志で参画し、常設展の更新や企画展などが開催されている。	4. 5. 市民が自らの意志で参画し、常設展の更新や企画展などについても市民が自らの意志で参画し開催されている		○
		6. 情報機器が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。	5. 6. 情報機器やアプリ等が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。		◎
		7. 博物館に縁遠かった人びとを呼び込み、利用者層・数を拡大する工夫がこらされている。	6. 7. 博物館に縁遠かった人びとを呼び込み、利用者層・数を拡大する工夫がこらされている。未来館者に対し、来館を促す工夫がされている。		◎

現在の「活動目標」	「活動目標」変更案	現在の「あるべき姿」	「あるべき姿」変更案	見直しのポイント	R1年度評価
		8.市民の知りたいこと、学びたいことをリサーチし、ニーズに応える形で講習・講座等が実施されている。	7. 8. 市民の知りたいこと、学びたいことをリサーチし、ニーズに応える形で講習・講座等が実施されている。講座内容が市民のニーズを反映したものとなっている。		○
		9.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。	8. 9. さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。		◎
		10.図書資料の活用が図られるとともに、コピーサービスなどの体制がつくられ機能している。	9. 10. 図書資料の活用が図られるとともに、コピーサービスなどの体制がつくられ機能している。		△
		11.新旧住民の交流の場となり、文化の掘り起こしがおこなえるような工夫がある。	(削除)	不要か	○
		12.市民が博物館活動に参加できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。	10. 12. 市民が博物館活動に参加できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。		○
		13.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。	11. 13. 利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。		○
(4)地域のつながりを活かす —地域連携の展開—		1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。		(2)へ移動	○
		2.博物館が学びの拠点となって地域とつながるシステムが構築されている。	1. 2. 市民学芸員・友の会員を中心に 、博物館が学びの拠点となって地域とつながるシステムが構築されている。		○
		3.地域連携によって新たな価値が発見・創造され、その成果が発信されている。	2. 3. 地域連携によって新たな 経済効果価値が発見・創造され、その成果が発信されている。		○
		4.博学連携が効果的に機能し、子どもたちの学びをサポートされている。	3. 4. 博学連携が効果的に機能し、子どもたちの学びをサポートされている。 地域の学校と連携し、子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流が促進されている。		◎
		5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。	4. 5. 他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。		○
(5)安心・安全な施設にする—改善と維持管理—		1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられている。	1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられて、 施設の維持管理がは かられている。		○
		2.バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づいて安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。	2. 包摂的な社会の実現のため、バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づいて 安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。		△
(6)袖博らしさを追求する —マネジメント力の強化—	(6)袖博らしさを追求する —マネジメント力の強化— 博物館の社会的役割の意識と地域への貢献	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場であるり、 観光拠点でもある 袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	市の観光拠点としての袖ヶ浦公園を強調	○
		2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるための魅力的な活動が継続されている。	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるために ボランティアを育成し、 魅力的な活動が継続されている。		○
		3.市民と共に歩む博物館として認知され、高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家の人材の確保・育成ができています。		(2)へ移動	○
			3. 収集資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉の向上についても貢献する。	(新規)	

アクアラインなるほど館の休館状況について

1. 休館 令和2年3月5日～現在も休館中
※緊急事態宣言の解除を受け、本館は6月1日まで、旧進藤家住宅は3月25日～6月1日まで休館し、一部利用制限などを講じて再開した。
2. 休館理由 展示室には窓が設置されておらず（排煙窓と避難口はあり）、空調機にも換気機能が備わっていないことから、十分な換気ができないため
3. 今後の対応
 - ・新型コロナウイルス感染症の状況次第で、再開を検討する。ただし、再開するにあたっては感染防止策を講ずる必要がある。
 - ※見学時間制限、入館人数制限などを行うとともに、避難口等を開放した定期的な換気を行うなどの措置を講ずるなど。
 - ・令和3年度に市政施行30周年を記念した事業として、アクアラインなるほど館に関する展示を行うことを検討中（1月～3月）。